

学習を自己調整できる児童の育成

—自己調整学習の要素を組み込み、段階ごとの循環を重視した 理科学習を通して—

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース 理数・自然科学系（理科）

小菅 弘樹

本研究では、自己調整できる児童を育成することを目指し、自己調整の3要素、動機付け、学習方略、メタ認知に着目し、①予見段階②遂行段階③自己省察段階の3段階が連動する理科授業を行った。また、講じた手だての有効性について検証することを目的とし、授業実践を行った。授業実践では、見通しをもてるワークシートや応用問題の解決、新たな疑問を重視した振り返りなど各段階に応じて計10個の手だてを講じた。アンケート結果や振り返りの記述から、自己効力感の増加、問題解決の力の向上、客観的な振り返りの記述など、自己調整の各要素の向上が示唆された。また、疑問を重視した振り返りなどの手だてでは、複数の要素を育成できたものもあり、有効であった。一方で、3要素の全てを連動的に育成することなどに課題が残り、手だての簡易化等で改善していきたい。